

図上訓練セミナー Biosecurity Table Top Exercise 2007

バイオセキュリティと社会の対応



参加のご案内

平成19年10月15日 10:00 ~ 17:30

東京慈恵会医科大学

目 的 SARSの流行、新型インフルエンザの脅威、生物テロの可能性など、私たちを取り巻くバイオセキュリティ環境は予断を許しません。「備えあれば憂いなし」と言われるように、これらの危機にいかに対処するか、前もって考察しておくことは、現実の被害を少なくすることにつながります。

本セミナーの目的は、 バイオセキュリティ環境を分析し、直面する脅威に関して理解を深めること、 そのような脅威への最適な対応手段を考えること、 シナリオ研究を通じて、関係機関相互の意思疎通を図るとともに、状況判断能力を養うことなどです。

本セミナーに参加されますと、脅威への対応方法を構築する上で参考となる様々な知見を得るだけでなく、関係者相互が自由に連絡しあうためのネットワークを広げることができます。「バイオセキュリティと社会の対応」について、皆様とともに考えていく機会を持ちたいと考え、ここにご案内いたします。

なお、同内容のセミナーは、昨年まで4年にわたって防衛省防衛研究所 と米国防衛分析研究所で共催してまいりましたが、その趣旨を継承し、本 年は東京慈恵会医科大学にてセミナーを開催いたします。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。



テーマ "バイオセキュリティと社会の対応"

日 時 平成19年10月15日(月曜) 10:00~17:30

閉会後、懇親会(¥5,000-)を計画しております 【懇親会】 18:30~20:30

虎ノ門パストラル 新館2階 レストラン「あたご」

http://www.pastoral.or.jp/access/img/map.pdf 会場より徒歩5分程度

会場東京慈恵会医科大学(東京都港区西新橋3-25-8) 大学1号館3階講堂 <u>次頁をご参照ください</u>

研修内容

10:00~10:30 (3階講堂)

開会挨拶 東京慈恵会医科大学 学長 栗原 敏

導入講義 「日本の危機管理制度の現状と課題(仮題)」

内閣官房副長官補 柳澤 協二 (予定)

11:30~14:30 (1) シナリオ演習(図上訓練)(8階小演習室)

15:00~17:30 (2)総合討議 (3階講堂)

導入講義の後、小グループに分かれての討議およびシナリオ演習を 行います。最後に参加者全員による総合討議を行います。 なお、本セミナーにおいては、参加者が自由に発言できるように、 <u>チャタム・ハウス・ルール</u>を適用しています。

「<u>チャタム・ハウス・ルール</u>とは、研究会における発言を公刊文書やマスメディア において引用する場合、議論の内容そのものを引用したとしても、発言者が特定 されるような形では行わないことです。このルールによって、皆さんの発言が勝 手に使われることはなくなります。ご理解とご協力をお願いします。

参加費 無料 交通・宿泊に係る費用は各自でご負担下さい。 昼食は当方にて準備いたします。 参加対象 図上訓練に実際参加する人数については、約50~100人余を予定しています。もちろんオブザーバーとしての参加もできます。導入講義ならびに総合討論に関しては300名まで入場可能です。

内閣官房;外務省;厚労省;防衛省;国交省・空港;警察庁・都道府県警察;地方自治体;国立感染症研究所;メディア;インフラ企業等(交通機関、ホテル、テーマパーク);消防庁;医療関係者;製薬業界;臨床検査;危機管理の関係する民間企業・NPO・研究機関;政治家;職業上バイオセキュリティに関する知識を必要とする方々等

【ご参考】(過去の防衛研究所危機管理セミナー参加実績例、順不同) <u>企業等:</u> JR東日本,東京急行電鉄,全日空,東京電力,関西電力, 東京ガス,東京海上日動,ニッセイ同和損害保険,日本通運,経済同友 会,電気事業連合会,原子力安全基盤機構

研究機関・シンクタンク: 危機管理中央研究所,未来工学研究所, 三菱総研,エム・オー・マリンコンサルティング,NTTデータ経営研究 所,リーダーシップ研究所,科学技術振興機構・社会技術研究開発セン ター,CRM危機管理中央研究所,平和・安保研究所,公共政策調査会, 原子力安全・保安院,東京慈恵会医科大学,防衛医科大学校

<u>財 団:</u> 笹川平和財団,東京財団

<u>マスメディア:</u> 日本テレビ, 読売新聞, 東京新聞, 共同通信 <u>関係省庁及び地方自治体:</u> 内閣官房, 外務省, 防衛省・自衛隊, 厚生労働省, 文部科学省, 消防庁, 海上保安庁, 警察庁, 公安調査庁, 衆議院, 参議院, 岩手県, 東京都, 千葉県, 静岡県, 岐阜県, 大阪府

主 催 東京慈恵会医科大学バイオセキュリティセミナー実行委員会

実行委員長

浦島 充佳 (東京慈恵会医科大学)

実行委員 (五十音順)

片山 善雄 (防衛研究所)

河本 志朗 (公共政策調査会)

小島 俊郎 (日立製作所)

橋本 靖明 (防衛研究所)

舟橋 信 (厚生労働科学研究 地域健康危機管理研究班 主任研究者)

宮坂 直史 (防衛大学校)

お申し込み・お問い合わせ先

本セミナーの性格上、図上訓練はじめ、オブザーバー参加、導入講義、 総合討論を含めて、ご参加は事前のお申し込みを頂戴した方に限らせていただきます。

<u>こちらのサイトからアクセスできます</u>

http://dr-urashima.jp/

東京慈恵会医科大学 臨床研究開発室

鈴木絵美、浦島充佳

E-mail: emisuzu@jikei.ac.jp urashima@jikei.ac.jp

住 所:〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

電 話:03-3433-1111 (内線2405) Fax:03-5400-1250

アクセス:都営三田線 御成門より徒歩3分/日比谷線 神谷町より徒歩5分

http://www.jikei.ac.jp/univ/access.html



http://www.jikei.ac.jp/univ/access_s.html



危機に備え産官学が交流

中立の立場が奏功

の危機管理関係者に知人が増え

さいたま市副市長、48)ら各界 ていた総務省の大庭城司(現在 関官房で国民保護体制を整備し た。それが含っかけで、当時内 という木にまとめ日本に紹介し

手応えを感じた浦馬は今春、

に直面したと答役に立つチーム

「日本が生物テロという危機

新たな勉強会を発足させた。 属する慈恵医犬の協力を得て、 をつくろう」。人脈の広がりに

部、医師や研究者、実価機関ス りのある中央省庁や自治体の幹 い通り、勉強会には彼とつなが のような中立の立場の者が声を ではないか」。満鳥のそんな狙 かけた方が人が集まりやすいの が起こりうる。大学で働く自分 他省庁が参加しないなどの弊害 「特定の省庁が声をかけると、

BCテロリズム 秋、米国で国際テロ組織アルカ 学の対テロ戦略』(角川書店) 補品は米国で学んだことを『N 解明)が発生。危機威を強めた んそ)國による生物テロ事件(表 イダによる同時テロと、炭疽(た 浦島が帰国した翌二〇〇一年 公衆衛生学一を学んだ。 ハーパード大

路駆けつける熱心な人々もい できた」と指摘する。実際、東 在だった。浦島勉強会や接点が 心のある人は従来も全国各地に 北大学大学院准教授の加来治療 いたが、それぞれが孤立した存 助隊長の井崎博之(4)ら、 (4) や、兵庫県豊田消防署数

それぞれの立場の人間がとっさ テロが起きたとのシナリオで、 会でやることを計画している。 に与えられた想定状況にどう即 応すべきかを聞う。状況付与型 の机上側習を今秋円開する勉強

(国際部 高坂西郎)

抑える総合的な学問領域である Ş だ、との浦島の信念からだ。 くことが生物テロ対策には有効 連絡し合える関係をつくってお ら交流することで、「異変」が 起きた際には電話一本で気軽に 同士が知り合う場も設けてい ぶほか、 懇親会も関いて参加者 分野の異なる人間が平時か

えるべく、ひとりの医師が数年 間かけて築いてきた異策種人脈 のを抑えるか――。 平時から債

即(64)は「生物テロ問題に関 略本部リスク対策部長の小鳥俊 に詳しい日立製作所グループ戦 参加者の一人で危機管理問題

は、発生が懸念されている新型

こうした生物テロへの備え

と、浦島勉強会のような民主選 は一公的な生物テロ対策の体制 でいきたい」と語る。 どんどん新しいアイデアを学ん のネットワークが重層的に存在 る内閣審議官、井上鎮三 (53) 管理伝制の「元締」の一人であ するのが選択しい。官も民から しまう弱点がある。政府の危機 浦島は現在、日本国内で生物

力する一つの形を示していると 口に備える浦島勉強会は、官を と」(参加者の一人)。生物テ ち寄って総がかりでやるべきこ けの務めではなく、志あるすべ は自衛隊や警察など実働機関だ 征の流行への備えにもなる。 インフルエンザなど新たな感染 も言える。 補い、垣根を超えて風楽機が協 ての書がそれぞれの得意技を持 国や社会を守るという仕事

が今春、宣産学の専門家が集つ ユニークな勉強会となって結実 医師の名は浦馬充住(45)。

の脅威が高まっている。もしも を兵器として使う「生物テロ」

国際テロ組織が危険な感染症

を食い止め、パニックが広がる 実際に起きたとき、いかに犠牲

徹を担当した。その後「より多 として骨髄移植など小児ガン診 だ。同大学を卒業後、小児科医 東京慈恵会医科大学の准教授

思いから、米ハーバード大学の くの患者さんを救いたい」 同時に、メディアなどと協力し ち早く気付き患者を隔離すると て社会にパニックが広がるのを **翻学。危険な感染症の流行にい** 公衆衛生天学院(HSPH)に 200

多形な思ぶれが集まった。 天然遺などの性質や対処法を学 使われる可能性のある炭疽菌や 浦島勉強会では、生物テロで

でいるが、「官」の性質上、 どに基づく危機管理体制を組ん 当者が数年ごとに入れ替わって 「官」の弱点補う 政府や自治体は国民保護法な

ネットワークをつくれたらい 地の医師たちを含めた異業種の い」と語る。 志明(日)は、一浦鼻蜒騒会の メンバーが地方を行動して、 財団法人公共政策調査会の河本 時間を割いて参加している。 る。多くは個人の立場で自分の

生物テロの被害が起きたと 全国各地の現場の医師たちだ。

注釈

日本経済新聞社より

掲載の許可を得ております。

図上訓練セミナー Biosecurity Table Top Exercise 2007 参加申込用紙

【平成19年10月15日(月)/10:00 開催】

東京慈恵会医科大学 臨床研究開発室宛 FAX: 03 5400 1250

ふりがな 参加者氏名	
大学/会社名 勤務先 ————————————————————————————————————	
電話番号 (内線番号)	
E-mailアドレス (楷書でわかりやすく)	[アンダーバー/ハイフンなどはしっかりと区別をお願いします]
住 所	<u>T</u>
参加希望の理由	

__ 研修参加 *(ご案内のP3)* に関し ~ を選んで下さい

: 導入講義 [10:00~/3階講堂]

: シナリオ演習[11:30~/8階小演習室]

: 総合討議 [15:00~/3階講堂]

__ <u>昼食に関し、チェックを入れて下さい</u>

: 必要: 不要

__ <u>懇親会に関しチェックを入れて下さい</u>

18:30~20:30 [虎ノ門パストラル]

· 参加(¥5,000-)

: 不参加

_ 定員の都合にてご参加いただけない場合の連絡は

: E-mail

: FAX: 置

必ずご回答 下さい!!

- 参加を希望される方は本用紙をプリントアウトし、必要事項を記入した上でFAXして下さい。 (1) なお、チェック項目は必ずご回答下さいますようご協力願います。
- |(2) E-mailにてFAXが届いた旨のメールを送ります。
- (3) 定員になり次第募集を締め切ります。その後FAXをいただいた方にはお断りのメールをお送り させていただきます。その際はご了解願います。